

(再評価)

そう や こう ほんこう ち く  
宗谷港 本港地区地域生活基盤整備事業

再評価原案準備書説明資料

令和3年度  
北海道開発局

# 目 次

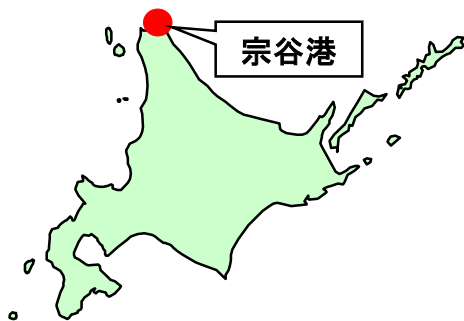
1. 事業の概要	.....	1
2. 事業の必要性等	.....	3
3. 事業進捗の見込み	.....	11
4. 地方公共団体等の意見	.....	12
5. 対応方針(案)	.....	13

# 1. 事業の概要

## (1) 事業の目的

- 宗谷港は、宗谷岬に隣接し、稚内市が管理する我が国最北端の地方港湾(避難港)。
- 本事業の目的は、物揚場や防波堤の整備による水産活動の効率化及び沖合航行船舶の安全な避泊水域の確保。

位置図・航空写真

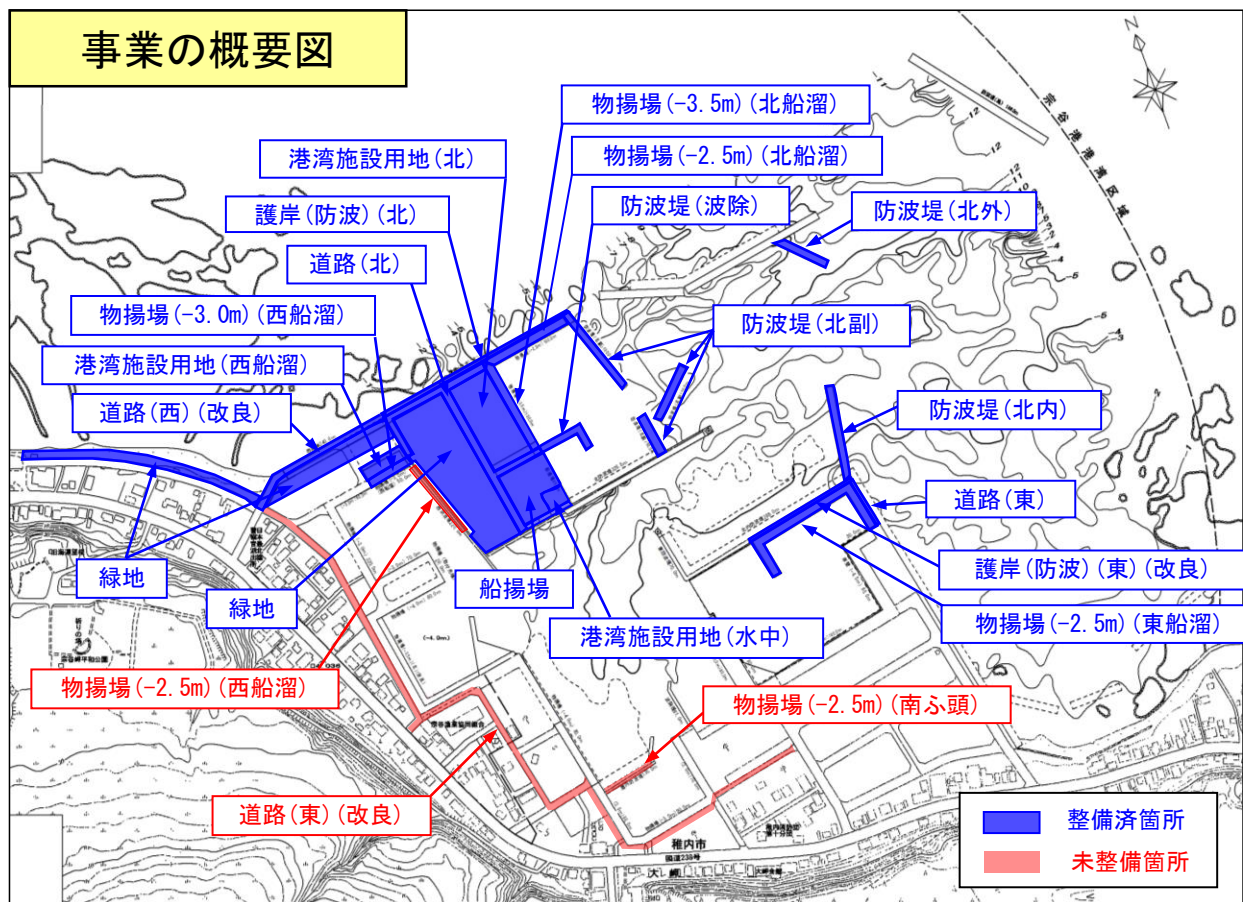


宗谷港



宗谷港 全景 (R1.10撮影)

事業の概要図



# 1. 事業の概要

## (2) 計画の概要

事業主体	施設名	規模	整備期間
国	防波堤(北外)	60m	H21～H30
	防波堤(北内)	110m	H19～H25
	護岸(防波)(北)	265m	H9～H16
	防波堤(北副)	220m	H12～H20
	防波堤(波除)	85m	H18～H19
	物揚場(-2.5m)(北船溜)	100m	H9～H15
	物揚場(-3.5m)(北船溜)	100m	H13～H14
	船揚場	65m	H14～H15
	港湾施設用地(北)	5,600㎡	H13～H15
	港湾施設用地(水中)	766㎡	H14～H15
	物揚場(-3m)(西船溜)	51m	H17～H18
	港湾施設用地(西船溜)	800㎡	H18
	道路(北)	508m	H15～H16
	道路(西)(改良)	522m	H15～H21
	道路(東)(改良)	386m	R8
	物揚場(-2.5m)(西船溜)	90m	R4～R5
	物揚場(-2.5m)(東船溜)	207m	H25～R2
	道路(東)	90m	R3
物揚場(-2.5m)(南ふ頭)	80m	R6～R7	
護岸(防波)(東)(改良)	205m	H26～R3	
管理者	緑地	12,104㎡	H16～H20

○総事業費 95億円

○残事業費 5億円 (令和4年度以降)

○整備予定期間 平成9年度～令和8年度

○整備進捗率 95%

## (3) 経緯

1997(平成9)年度	事業採択、現地着工
2002(平成14)年度	物揚場(-3.5m)(北船溜)供用開始
2003(平成15)年度	物揚場(-2.5m)(北船溜)供用開始
2006(平成18)年度	再評価の実施 物揚場(-3.0m)(西船溜)供用開始
2011(平成23)年度	再評価の実施
2014(平成26)年度	再評価の実施
2017(平成29)年度	再評価の実施
2021(令和3)年度	再評価の実施
2026(令和8)年度	事業完了予定

# 2. 事業の必要性等

## (1) 事業を巡る社会情勢等の変化

### 【対象港湾周辺の動向】

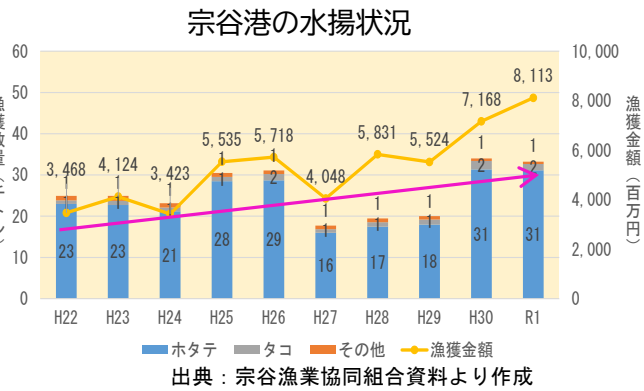


# 2. 事業の必要性等

## (2) 事業の整備効果(水産活動の効率化及び基幹産業の発展)

○宗谷港は、ホタテ漁や日本一の水揚量を誇るタコ漁など80億円を超える水揚があり、200隻以上の漁船に利用される水産拠点として重要な役割を担っている。

○宗谷港における新たな物揚場及び防風雪施設等の整備により、荷役や準備作業にかかる時間が短縮されることで、水産物の安定的な供給とともに、水産加工業関連の設備投資など、基幹産業全体の発展が期待される。



設備投資例：水産物加工処理施設 (H25, 宗谷漁業協同組合)



### 防風雪施設の利用状況

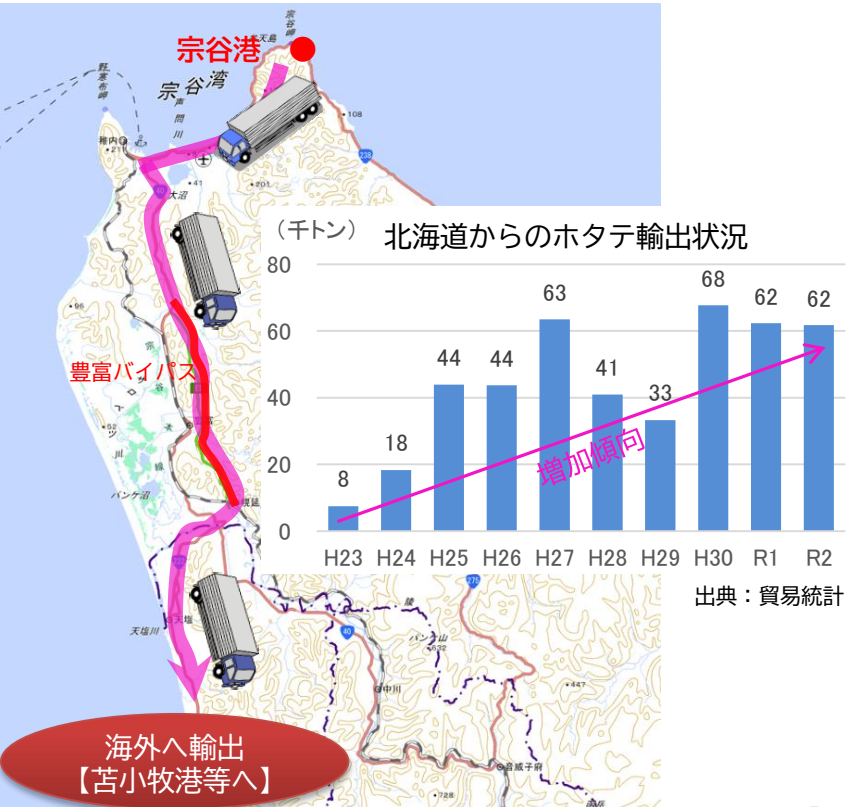
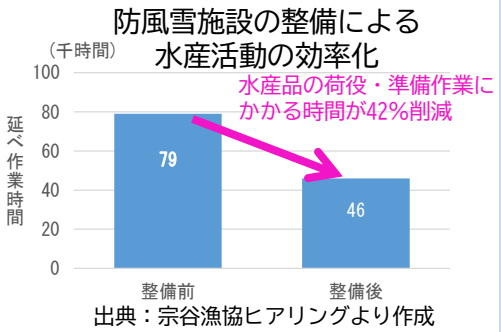
※H26秋の爆弾低気圧により漁場が被災し、H27～H29はホタテが減産。稚貝を巻いた4年後に漁獲するため、H30より回復。

### R1タコ水揚量ランキング (地域・振興局別)

単位：トン

1位	宗谷	4,223
2位	根室	3,740
3位	釧路	3,006
4～8位	道内他	2,926～1,609
9位	兵庫 (瀬戸内海区)	1,262
10位	青森 (太平洋北区)	1,012

出典：海面漁業生産統計調査 (農林水産省)



海外へ輸出  
【苫小牧港等へ】

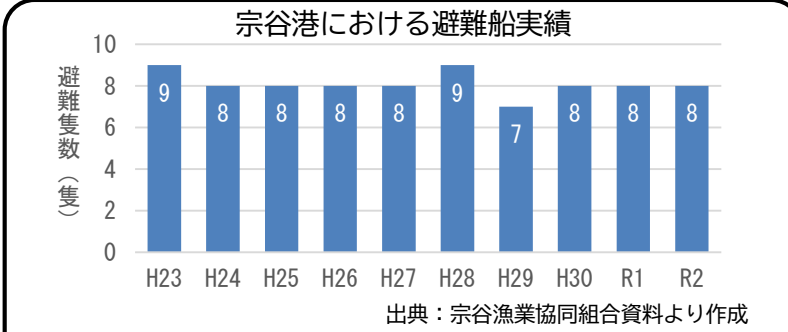
■地域の声(R3: 漁業関係者)

・物揚場が増えて、出漁準備作業を行う漁船の係留場所が確保され、作業の効率化が図られました。さらに、防風雪施設が出来たことにより、船体動揺が軽減して、漁獲物の荷揚げ等の作業効率が格段に向上しました。

# 2. 事業の必要性等

## (2) 事業の整備効果(安全な避泊水域の確保及び低潮線保全)

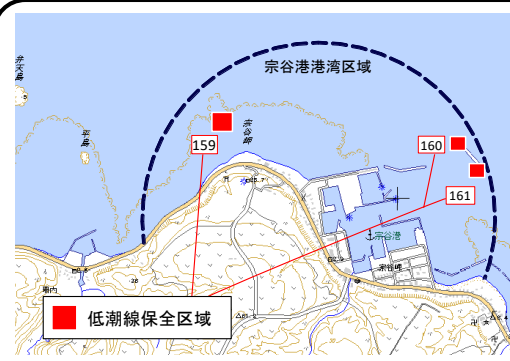
- 宗谷港における防波堤及び物揚場の整備により、避難港として、近隣漁港を利用する小型船の避難が可能となり、海難の減少が期待される。
- 宗谷港の港湾区域内には「低潮線保全区域」(排他的経済水域等の外縁を根拠付ける低潮線の保全が必要な海域)が指定されている。本事業で整備された「てっぺんドーム(防風雪施設上部)」を活用することで、低潮線保全の重要性の普及・啓発が期待される。



小型船の避難係留状況



■地域の声(R3:漁業関係者(近隣漁港))  
 ・急な荒天により、漁場から漁港へ戻れないことがあったが、宗谷港へ無事に避難することができ、本当に助かりました。



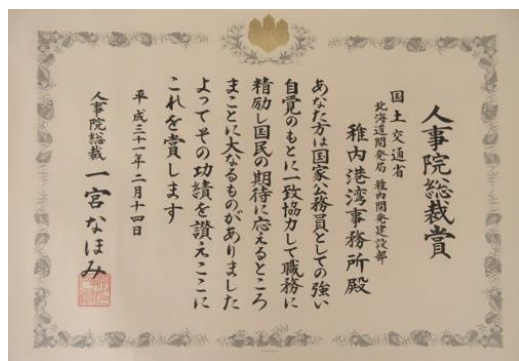
低潮線保全区域 位置図



低潮線保全区域(160・161)



港湾業務艇「りんどう」で低潮線を巡視する北海道開発局職員



人事院総裁賞 賞状

# 2. 事業の必要性等

## (2) 事業の整備効果(にぎわい空間の形成による地域の活性化)

- 宗谷港では平成6年度に「宗谷港マリンタウンプロジェクト」が策定され、日本最北端の宗谷岬と連携したにぎわい交流空間の形成を目指している。また、利尻島・礼文島を含む宗谷地域が一体となった観光空間づくりが進められている。
- 本事業の実施により、宗谷港周辺地域の魅力向上が図られ、水産業と観光との連携による港湾来訪者の増加など、地域の活性化が図られる。

礼文島澄海岬  
写真：礼文島観光情報HP

**宗谷港**

宗谷港マリンタウンプロジェクト (イメージ) 緑地における食のイベント

フェリーでの離島観光

広域観光周遊ルート 日本のでっぺん。きた北海道ルート。

日本最北端・宗谷岬  
写真：稚内観光協会HP

水揚量日本一のミズダゴを使ったタコしゃぶ  
写真：わっかない観光活性化促進協議会HP

宗谷海峡で育った身がギュッと締まった活ホタテ  
写真：稚内ブランド推進協議会

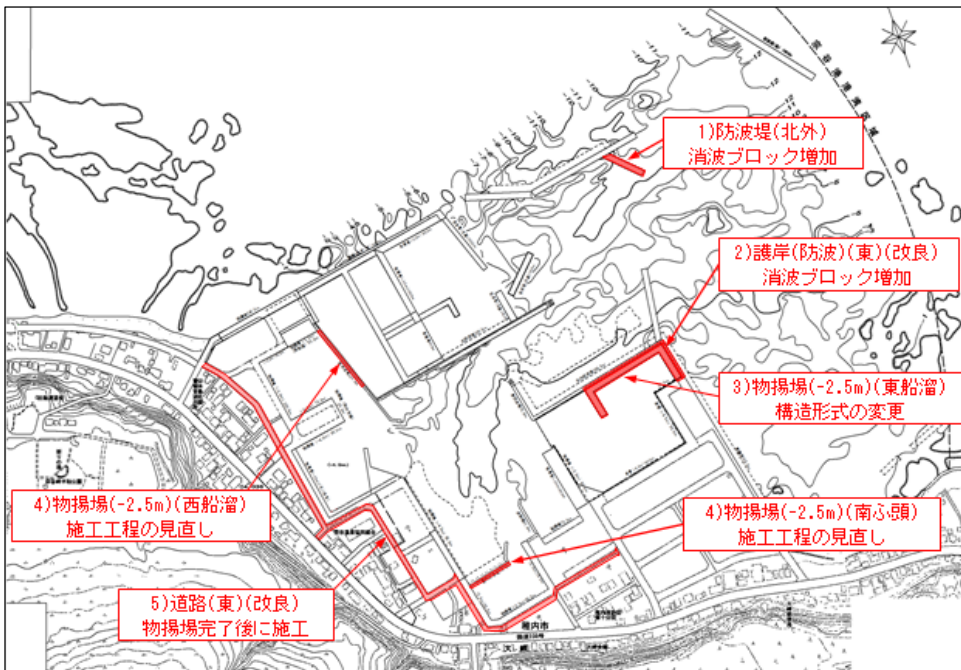
■地域の声(R3:観光業関係者)  
・宗谷岬をはじめとする宗谷港周辺地域は、稚内市の最も魅力的な観光資源の1つで、近年はレンタカー等での個人客が多く訪れています。宗谷港で獲れたタコなど稚内ブランドのPRとともに、宗谷港も含めた周辺地域でのさらなる観光需要につなげていければと思っています。



# 2. 事業の必要性等

## (3) 事業の投資効果(全体事業費・事業期間の変更)

- 1)防波堤(北外):現地測量の結果、消波ブロック数量が増加したため、事業費0.4億円増
- 2)護岸(防波)(東)(改良):現地測量の結果、消波ブロック数量が増加したため、事業費0.4億円増、事業期間延伸  
(R1完了→R3完了:+2年)
- 3)物揚場(-2.5m)(東船溜):防波堤整備後の港内静穏状況を踏まえて構造形式を変更したため、事業費1.3億円減
- 4)物揚場(-2.5m)(西船溜)、物揚場(-2.5m)(南ふ頭):施工箇所付近を航行する船舶の安全性に配慮し、  
施工工程の見直しを行ったため、事業期間延伸(R3完了→R7完了:+4年)
- 5)道路(東)(改良):利用者との調整の結果、物揚場整備を優先とするため、事業着工延伸(R3着工→R8着工:+5年)



事業スケジュール(ー:変更前、-変更後)

施設名	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
物揚場(-2.5m)(東船溜)	■	■	■	■						
護岸(防波)(東)(改良)	■	■	■	■	■					
物揚場(-2.5m)(西船溜)				■	■	■	■	■	■	■
物揚場(-2.5m)(南ふ頭)					■	■	■	■	■	■
道路(東)(改良)					■	■	■	■	■	■

前回評価 (H29)	今回評価 (R3)	増減額
95.9億円	95.3億円	-0.6億円

前回評価 (H29)	今回評価 (R3)	増減年数
平成9年～ 令和3年	平成9年～ 令和8年	+5年

# 2. 事業の必要性等

## (3) 事業の投資効果(費用便益分析 ～事業全体～ )

●条件 基準年:令和3年度 供用期間:50年

●総費用(現在価値化後) (億円)

費用内容	総費用
○建設費	195.8
○管理運営費	1.6
合計	197.4

●総便益(現在価値化後) (億円)

便益内容	便益費
○滞船コストの削減	164.7
○静穏度確保による作業コストの削減	24.0
○防風雪施設整備による作業コストの削減	21.9
○港湾施設用地整備による漁船上下架作業コストの削減	1.3
○海難の減少	28.8
○残存価値	0.0
合計	240.8

※端数処理のため、各項目の金額の和は、合計欄に記入している数字と必ずしも一致するとは限らない。

●算定結果

費用便益比 (CBR)	$B/C = \frac{\text{便益の現在価値(B)}}{\text{費用の現在価値(C)}} = \frac{240.8}{197.4} = 1.2$
----------------	---

●感度分析

変動要因	基本ケース	変動ケース	費用便益比
需要	1.2	±10%	1.1~1.3
事業費	1.2	±10%	1.2~1.2
事業期間	1.2	±10%	1.2~1.2

# 2. 事業の必要性等

## (3) 事業の投資効果(費用便益分析 ～残事業～ )

●条件 基準年:令和3年度 供用期間:50年

●総費用(現在価値化後) (億円)

費用内容	総費用
○建設費	4.2
○管理運営費	1
合計	5.2

●総便益(現在価値化後) (億円)

便益内容	便益費
○滞船コストの削減	6.6
合計	6.6

※端数処理のため、各項目の金額の和は、合計欄に記入している数字と必ずしも一致するとは限らない。

●算定結果

費用便益比 (CBR)	$B/C = \frac{\text{便益の現在価値(B)}}{\text{費用の現在価値(C)}} = \frac{6.6}{5.2} = 1.3$
----------------	---

●感度分析

需要	1.3	±10%	1.1~1.4
事業費	1.3	±10%	1.2~1.4
事業期間	1.3	±10%	1.3~1.3

# 2. 事業の必要性等

## (3) 事業の投資効果(費用便益分析 前回評価との比較)

		H29再評価時点	R3再評価時点	備考 (前回評価からの主な変更点)
事業費(億円)		96	95	・物揚場構造形式の変更による減
整備予定期間		平成9年度～ 令和3年度	平成9年度～ 令和8年度	・消波ブロック数量精査及び港内航行の安全性に配慮した施工工程の見直しによる増
便益の対象となる 需要予測	小型船隻数	244隻/年 (令和4年度)	219隻/年 (令和9年度)	・利用需要予測の見直しによる減
	避泊回数	7隻 1回/年 (令和4年度)	11隻 1.3回/年 (令和9年度)	・防波堤及び物揚場の整備による受入可能隻数の増
便益(現在価値化後) (億円)		203	241	
B/C		1.3	1.2	

# 3. 事業進捗の見込み

## ○平成9年度から令和3年度までの整備状況

(事業費:億円、数量:m、m<sup>2</sup>(泊地・用地のみ))

施設名	全体事業	実施済	残事業	進捗率 (%)	備考	施設名	全体事業	実施済	残事業	進捗率 (%)	備考	
防波堤(北外)	事業費	10.3	10.3	—	100.0	完了	港湾施設用地(西船溜)	事業費	0.02	0.02	—	完了
	数量	60	60	—				数量	800	800	—	
防波堤(北内)	事業費	9.3	9.3	—	100.0	完了	道路(北)	事業費	1.3	1.3	—	100.0
	数量	110	110	—				数量	508	508	—	
護岸(防波)(北)	事業費	19.6	19.6	—	100.0	完了	道路(西)(改良)	事業費	2.2	2.2	—	100.0
	数量	265	265	—				数量	522	522	—	
防波堤(北副)	事業費	22.6	22.6	—	100.0	完了	道路(東)(改良)	事業費	0.6	0.0	0.6	0.0
	数量	220	220	—				数量	386	0	386	
防波堤(波除)	事業費	2.8	2.8	—	100.0	完了	道路(東)	事業費	0.3	0.3	—	100.0
	数量	85	85	—				数量	90	90	—	
物揚場(-2.5m)(北船溜)	事業費	3.5	3.5	—	100.0	完了	物揚場(-2.5m)(西船溜)	事業費	2.7	0.0	2.7	0.0
	数量	100	100	—				数量	90	0	90	
物揚場(-3.5m)(北船溜)	事業費	2.5	2.5	—	100.0	完了	物揚場(-2.5m)(東船溜)	事業費	6.3	6.3	—	100.0
	数量	100	100	—				数量	207	207	—	
船揚場	事業費	3.0	3.0	—	100.0	完了	物揚場(-2.5m)(南ふ頭)	事業費	1.8	0.0	1.8	0.0
	数量	65	65	—				数量	80	0	80	
港湾施設用地(北)	事業費	1.4	1.4	—	100.0	完了	護岸(防波)(東)(改良)	事業費	2.6	2.6	—	100.0
	数量	5,600	5,600	—				数量	205	205	—	
港湾施設用地(水中)	事業費	0.9	0.9	—	100.0	完了	緑地	事業費	1.4	1.4	—	100.0
	数量	766	766	—				数量	12,104	12,104	—	
物揚場(-3.0m)(西船溜)	事業費	0.2	0.2	—	100.0	完了						
	数量	51	51	—								

※「数量」は、現場着工した整備施設の事業費による換算数量とし参考値とする。

## ○事業の進捗の見込み

本事業にかかる関係機関との調整は整っています。  
 事業進捗率は95%となっており、事業が順調に進んだ場合には、令和8年度の完了を予定しています。

※事業進捗率は、事業費変更後の進捗率(令和3年10月時点)。

# 4. 地方公共団体等の意見

期成会等名称	会長等	主な構成メンバー	要望内容
宗谷地域 総合開発期成会	稚内市長	稚内市、猿払村、浜頓別町、 中頓別町、枝幸町、豊富町、 礼文町、利尻町、利尻富士 町の首長	本地域の水産業を支えるため、港湾機能の充実を図るとともに、作業効率や安全性を向上させ、より鮮度が保たれた生産が継続されることで、地域経済をさらに活性化させるため、宗谷港の整備促進を要望。

## ○港湾管理者(稚内市)からの意見

対応方針(原案)案については、特段の異議はございません。  
 宗谷港は、地域の水産業を支える港湾として重要な役割を果たしております。  
 しかし、小型船の係留に必要な施設が不足しており、その対策は喫緊の課題となっております。  
 事業の継続について、特段のご配慮をお願い致します。

## 5. 対応方針(案)

- ・宗谷港本港地区地域生活基盤整備事業は、背後圏域における地域経済の活性化のみならず、我が国の重要施策である農水産品の輸出拡大にも寄与する事業と考えられます。
- ・事業の必要性・重要性に変化はなく、費用対効果の投資効果も確保されていることから、事業の継続を原案としてお諮りいたします。
- ・引き続き、コスト縮減に取り組むとともに、適正な事業費及び事業期間の管理に努めていきます。